高校生と商店街の協働による商店街活性化モデルの構築 *デジタルとアナログによる地域再考と掘り起こし*

シェリ•ジュリアン•一郎*1,小野寺美乃*1,高橋陽菜*1,米川遥*1,花澤龍章*1,瓦家寛那子*1,中田愛弓*1,中條里菜*1,中村航*1,清水梨穏*1,金子美佐*1, 池村 桃夏*1,橋本歩実*1,小熊七海*1,三橋果穂*1,眞鍋陽大*1,関根ひかり*2,大原妃陽*2,友澤歌乃*2,片野美緒*2,常浄德圓*2,林美希*2,築地彩*2,佐藤妃生*2, 菅原 萌子*2,德丸麻*2,飯室風美*2

*1東京都立科学技術高等学校 *2東京都立深川高等学校

研究の背景

商店街高齢化社会の商店街の維持は「買い物弱者」対策

①東京都港区では**再開発地区における買い物弱者問題が2014年には露呈**しており、**行** 政として対策が求められる状況となっている(図1参照)。

②東京都の高齢化率は全国の高齢化率と比較すると緩やかな傾向であるが、2020年に は東京都も人口減少が始まり、高齢化が一層進むことが予想される。

商店街に高校生が参画した地域活性化のモデルと在り方について

高校生が商店街の活性化に参画することによって

①高校生と商店街が地域を再考し、その地域の魅力を発見し地域に発信することによっ て社会がどのような取り組みをどのような背景で取り組んでいるか実態を捉えながら活 **動を進める**ことができる・

②高校生が地域を知り、地域の人が地域を再発見することで、商店街で働く人々、生徒 がどのようにして課題意識を構築していくのかの様相を捉えることができる。

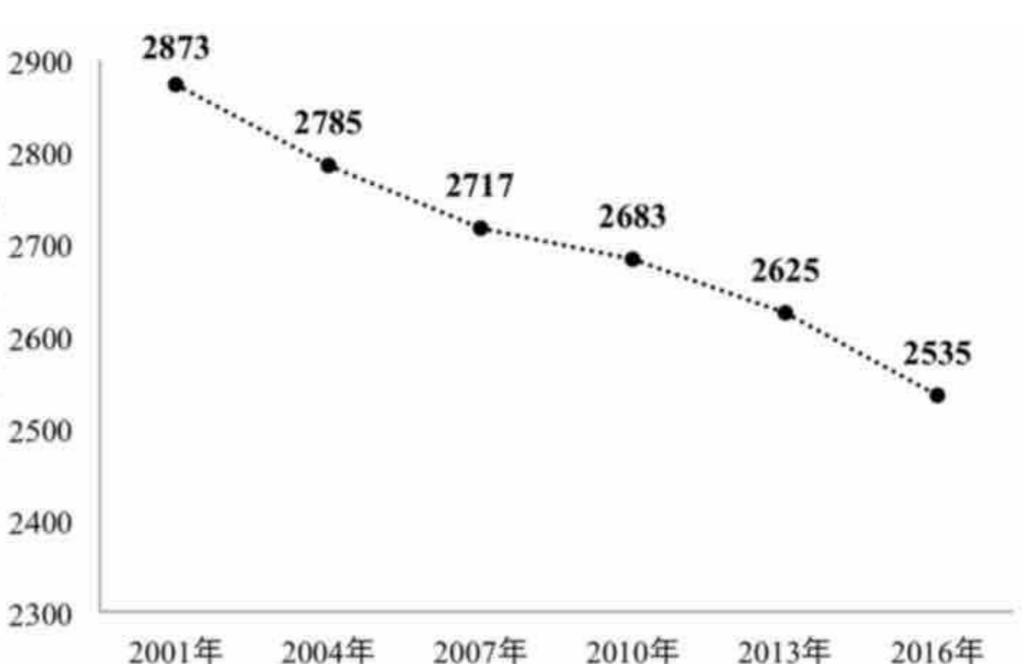


図1 東京都内の商店街の数の推移 (2018年度東京都商店街実態調査報告書より作成)



図2 梅屋敷商店街(S25) (ぷらもーる梅屋敷HP・商店街の歴史より)



図3 京急梅屋敷駅 (S28)

研究対象地:梅屋敷

本研究の研究対象地である「梅屋敷」は,**江戸時代に「和散中」という薬** 屋が作った梅園が人気を博し、将軍や後の天皇も訪れる名所となった。こ れが現在の梅屋敷公園である。明治時代に京浜急行の梅屋敷駅が開業する と多くの店舗が並ぶようになり、昭和初期には梅屋敷梅交会が設立された。 昭和56年には、東京都「マイタウン構想」の一環である「モデル商店街」 **の第一号に指定**され、現在に至るまで多くの方に親しまれている。梅屋敷 駅から東邦医大通りまでの**全長550mに140店舗が営業**している。店舗構成 として、食材・惣菜29店、飲食店24店、その他販売27店、サービス46店と なっている(図2・図3参照)。

本研究の目的と実践方法

2018年度に住総研の支援を受けて行われた実践研究において、**商店街で活動している際に多くの商店街の古い写真を見ることができた**。この古い 写真は地域にとって、地域住民が「地域を知る」ことにつながる、**大変貴重な資料であり、重要な教育ツールともなると着想を得た**。また、梅森 プラットフォームKOCAという新拠点が駅の高架化によって誕生した。本研究では、次の2点を行う。

①梅屋敷駅高架化によって誕生した新拠点KOCAで働く人々について住民に知ってもらう機会を構築する。

②AR(拡張現実)技術を用いて、**地域における歴史と現在のつながりを材料とした地域活性化モデルを構築**する。このモデルは、**住環境の歴史や 価値を地域住民、商店街に再認識させるものとなる**。また、さらに小中学校で実践されている「地域調べ」のツールとして運用することによっ て、低年齢の子供たちにも地域を発信することができ、将来にわたる住環境を考えるきっかけの仕組みとする。

プロジェクト①KOCAの人々

①高校生にとって「住」「起業」「地域」を考える場とする。 ②梅屋敷・大森地区における「KOCA」で働く人々の発信にする。

アージリスによる

シングルループ学習とダブルループ学習

■シングルループ学習■

すでに備えている考え方や行動の枠組みに したがって問題解決を図っていく学習

■ダブルループ学習■

既存の枠組みを捨てて新しい考え方や行動 の枠組みを取り込んでいく学習



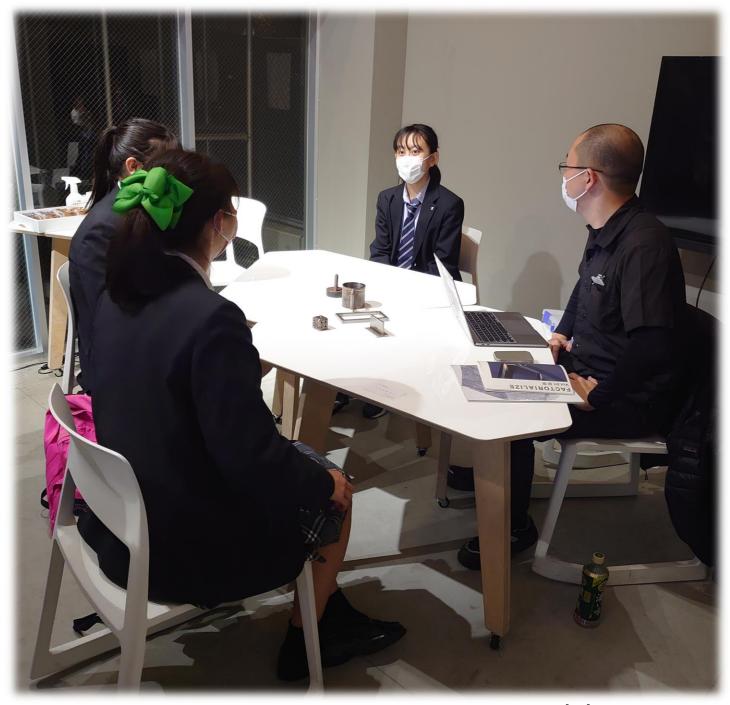


図4 KOCAの人々の取材

YOCHIYA



図5制作したポスター

プロジェクト②梅屋敷のARによる時層写真化

かつての梅屋敷の写真を用いて、現在の姿と過去の姿を層(時層化)にする。写真については大田区立郷土博物館の協力で収蔵されている写真 (すでにデータ化)を使用させていただき、AR技術によってアプリ開発を行い、商店街の歴史探訪ツール化をする。





科学技術高校の役割 ▶ARを用いて時層化



深川高校の役割 ▶時層化したものを英語化





■科学技術高校有志、深川高校国際協力ボランティア部の合同で お互いの強みを活かしながら活動を行なっています。











行われています。